

# ガリレオ通信第1号

伯耆駿英予備校 平成28年5月

平成28年5月17日

保護者様各位

駿英予備校校長 影山昌秀

## 1. 伯耆駿英予備校・今年の大学入試結果

国立医学科3名、旧帝大5名など、今年度も素晴らしい合格実績でした。主な大学合格者は、以下の通りです。

|                            |                |                |              |
|----------------------------|----------------|----------------|--------------|
| 大阪 3 (工1・理2)               | 九州 2 (歯・理)     | 神戸 2 (経営・作業療法) | 大阪市立 1 (商)   |
| 大阪府立1 (理)                  | 広島 2 (薬2)      | 徳島 1 (薬)       | 東京学芸 1 (初等1) |
| 香川 1 (経済)                  | 兵庫県立1 (看護)     | 宮崎 1 (農)       | 山形 1 (工)     |
| 愛知県立芸術1                    | 愛媛県立医療技術1 (検査) |                |              |
| 鳥取 7 (医2・獣医1・工2・検査1・看護1)   |                |                |              |
| 島根 4 (医1・看護2・法文1)          |                |                |              |
| 岡山 5 (歯1・検査1・環境理工1・工1・経済1) |                |                |              |

|        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 早稲田 2  | 明治 3   | 法政 3   | 青学 1   |
| 東京理科 2 | 明治学院 1 | 同志社 4  | 立命館 2  |
| 関学 5   | 関大 1   | 近畿 2   | 甲南 1   |
| 京都薬科 2 | 大阪薬科 1 | 神戸薬科 1 | 京都女子 2 |

## 2. 伯耆駿英予備校の特徴

伯耆駿英予備校は、各大学の入試情報・入試問題を分析し、5科目を総合的に指導しています。そうすることで、どの教科で何点取れば合格できるかを明確にして指導をしています。「総合的に指導」するためには、入試までの3年間を逆算してカリキュラムを作り、さらに毎年、「大学入試分析会」を行い、それを授業に反映させています。

また学習環境を整えるために、「自習室」と「食事室」を完備しております。現在生徒たちは、部活帰りなどに自習室をおおいに活用し、真摯に勉強に取り組み、互いに励まし合って勉強しています。また授業前に簡単な食事ができる食事室もたくさんの生徒さんに利用していただいておりますが、その部屋には、日本最難関と言われる東大理Ⅲ、官僚になる人たちの東大文Ⅰの合格体験記の本があり、彼ら彼女らが使

った教材や勉強時間などが参考になるようにしてあります。

今年度から、午後9時30分まで校舎内でのスマートフォン・携帯電話の使用禁止を徹底するようにしました。その結果、自習室、各教室でも静かに自習、授業の準備をしています。食事室も時間を限定して使用していただくようにしました。出来る限り校舎全体を勉強する空間にしています。

### 3. 大学入試改革

現在のセンター試験の弊害の一つに、本人が本当に学びたい学部学科を選ぶのではなく偏差値で選ぶことがあります。例えばセンター試験の得点率が88%以上ならば地方国立医学科、82%になれば国立薬に志願変更する学生がいることです。合格した大学に対して自分はどうな貢献ができるのか、将来社会に対して何をなすべきなのかを思考しながら大学に進学してほしいです。

2020年より新テストが実施される方向で進んでいます。昨年度はそれに先駆けて東京大学の後期試験がなくなり、代わりに推薦試験が行われました。入試改革に向けて大学も変わろうとしています。今後二次試験は、面接に重点が置かれる傾向に変わると考えます。具体的に学生に何を求めているのか、分かりやすい例として以前NHKで放送された「ハーバード白熱教室」があります。あの中の子のように自分の意見を持っている学生です。つまり「批判的思考を培い、学生が自分なりのものの見方や、他人との違いを自覚し議論できること」を望んでいるのです。

### 4. 市進ウイングネット (映像授業)・ホームページ

「短期間で特定の分野をマスターしたい、基礎から勉強し直したい、自分の都合のいい時間にいつでも受講したい」を可能にしました。Z会とも提携しその授業を配信しています。体験授業も出来ますので、受講してみてください。ホームページを新しく致しました、是非ご覧ください。今後は、台風などでの急な休校の場合ホームページでもご連絡させていただきます。宜しくお願い致します。

### 5. 既卒生の伯耆駿英予備校

今年度の既卒生の結果は、大阪大学、広島大薬、宮崎大、早稲田大、立命館大などでした。今年度は、生徒たちが規則正しい生活を送ることを重点にしていきます。授業内容も去年よりさらに充実しています。生徒は、現在元気に毎日、朝8時30分より夜9時30分まで土曜日、日曜日も無く毎日勉強しております。また、元米子東高校長仲本先生に引き続き特別顧問としてお越しいただき指導を仰いでいます。

最後に、私達は、生徒さん一人ひとりが学力を高め、自分に自信を持つことを願っています。そして同時に、人のために役立つ人になってほしいと思っています。そのために、一人ひとりに合った大学、学部・将来の職業をともに考え、探しながら支援しています。これからも、生徒さんとの面談を随時行っていきますので、保護者の皆様もお気軽にご相談下さい。教える教諭は、京都大、筑波大、東北大、大阪外語大、岡山大、大阪教育大、早稲田大、南山大、など優秀な指導陣です。お任せ下さい。

## II 各学年別メッセージ

### 1年生

高校に入学して2カ月近く経過しました。1学期中間テストもあり、勉強に部活にと忙しい日々を送っている人も多いでしょう。

#### (1) 1日3時間以上の勉強

1年生は、大学受験に向けての各教科土台作りの大切な時期です。

今しか深く学ぶ機会のない基礎的な内容もあり、少し気を抜くと2年生、3年生で行う発展的学習の理解が難しくなにかねません。

勉強、部活にそれぞれメリハリをつけて、今学習している内容が2年半後の受験にどうつながっているか授業内で説明もしますので、それを常に意識し、自分の目標に向けて、1日3時間以上は勉強してください。

#### (2) 進路・面談

進路や志望校がまだ定まっていない人も、様々な人に話を聞いたり、本を読んだり、自分の興味、関心がどこに向かっているのかアンテナを張り巡らせて探していきましょう。

そこが決まると、特に強化すべき科目や今の段階ですべきことなどがもっと明確に見えてきます。進路や勉強、日々のことで悩んでいること、不安なことがあればいつでも担任か進路指導部に声をかけて相談してください。

### 2年生

#### (1) 1日4時間以上の勉強

受験まであと2年間ですが、この1年間がとても大事です。

難関大学、難関学部を目指している人は、この1年間に模試でC判定以上は出しておかないといけません。

そのためには、得意教科を徹底的に伸ばすこと、中途半端な伸び方ではなく、深く掘り下げて二次対策の意識を持って勉強することが大事です。また弱点教科を作らないことも大事です。

1日4時間以上の勉強が必要です。

#### (2) 志望大学を調べる

2年生は、自分の志望大学の特色や試験科目・配点等を調べ、難易度の異なる大学を三校ぐらい、大まかな候補を考えておきましょう。夏休みに大学見学に行くとやる気が出ます。

#### (3) 自分の勉強スタイルの確立

一番重要なのが「こういう勉強をすれば成績が上がる」というスタイルを確立すること。

模試ごとに計画を見直し、次の模試までにどの範囲を補強するか、それを実行して模試で結果を見る。そのサイクルの中で自分にあった方法を模索する。今、2年生のうちに頑張りましょう。

### 3年生

#### (1) 夏までが勝負

言うまでもなく今年1年間で勝負が決まります。しかも、今年前半の夏までにほぼ決まってしまうと言っても過言ではありません。それ以降の伸びはなかなか難しいです。

## (2) 1日5時間以上の勉強

どの教科を今伸ばすのか、どの教科はいつまでにどれくらい取れるようにするのか。具体的に計画を立てて、勉強して下さい。

1日5時間以上の勉強が必要です。5時間以上を勉強しないで、志望校をあきらめてはいけません。

## (3) 模試

3年生はこれから毎月のように模試を受けることとなります。各教科で多少の点数の変動はあるものの、合計点で見れば、やはり、実力通りの結果が出ます。あまり良くない結果の人は、今の自分の実力を冷静に受け止めて、それでも「やれば上がる」と信じて努力しましょう。

勉強面では、入試において強力な武器になる（安定して高得点が取れる）教科が2教科、出来れば3教科あれば受験にはかなり有利です。特に英語は必ず得意にしておかないといけません。

夏までに英語を含めた2教科で実際に点数が取れて自信がつけば、夏以降に苦手な教科に時間を使えるので、入試本番の1月頃には、全体的なレベルアップが期待できます。

## (4) 足掻く（あがく）

何をやってもうまくいかない時は必ずありますが、苦しくても足掻ききるかどうかが入試本番でも、その後の人生においても大切です。

受験で「自分はあれだけやった。だから大丈夫だ。」という経験があれば、大学以降の自信にもなります。

部活と同じで、まずは体力（勉強時間）を鍛え、次に得意なスキル（得意教科）を伸ばすことが、実力アップの近道です。

## Ⅲ 資料 5枚

1. 合格体験記 3名

2. 大学入試関係

- (1) 大学で取れる資格には、どのようなものがあるか
- (2) 大学の学費
- (3) 入試の基本イメージ
- (4) 学部・学科選びの基礎知識
- (5) 大学センター試験とは
- (6) 国公立二次試験
- (7) 私立大入試
- (8) 国公立・私立大学の新增設・改組・変更点（東大・京大の推薦入試とは）

来年度入試に関しては、7月10日（日）に「大学入試分析会」で詳しく分析します。ぜひ参加して、入試のための準備を万全にして下さい。（申込み用紙は同封してあります）

# 伯耆駿英予備校 2016年度 大学合格体験記

## 1. 網谷祐太 (米子東) 鳥取大学・農学部・共同獣医学科 合格 (「伯耆駿英予備校で「英・数・国・理」を受講」)

高校では中学校の知識はほぼ使いません。高校入試の点数が良かったからといって油断してはいけません。米子東高校に入学したことに満足したのか、中学時代はよく勉強した人が、高校ではあまり勉強をしなくなる人が多くいた印象があります。

高校での授業は、予習はした方がいくらのレベルですが、復習は必ずしなければならないレベルで重要だと思います。第1志望合格を目指して精進して下さい。

では、各教科の勉強について書きます。

### 【国語】

センター試験の国語は、評論・小説・古文・漢文の4問で構成されています。

評論については、塾で行なう問題演習をしていました。私は塾で指導された通り、接続語や指示語に注意すべき言葉にマークをつけて文章全体の内容が分かりやすいようにしていました。あとは数をこなして、慣れていくだけでいつも満点近くとれました。

小説については、家で本を読んだり、塾で実践演習の文章を読んだりしてで語彙力と登場人物の心情を読み取る力をつけました。

古文については、まず1年の間に塾で配布される参考書に付属しているCDを使って助動詞の活用や接続をすべて覚えることが必要です。その後、古文単語帳を使って休憩時間や少し空いた時間に古文単語を覚えていきました。単語力がつくと古文が断然読みやすくなります。

漢文については、塾で護法や重要漢字を完全に覚えるようにしていました。漢文は勉強すれば簡単に点が取れるようになります。

### 【英語】

私は初め、英語で6割程度しか取れていませんでした。しかし、塾のハイレベル英語に通い始めてから点が上がり、模試やセンター試験本番で9割を取ることが出来ました。塾の授業で添削されて返却される英作文プリントをノートに貼り、要点をまとめて活用していました。また空いた時間を利用して、英単語やイディオムを覚えるようにしていました。

2年生になる時にビンテージという問題集を学校で購入させられますが、これは買ったらすぐにやり始めた方がいいです。早目にやり始めた人と、学校でやるように指示されてから始めた人では、マーク式の模試になった時に大きな差ができます。

## 【数学】

私は数学がとても苦手でした。途中まで計算できて、後半にさしかかる辺りでいつも詰まっていた。それは基本が出来ていなかったためであることが要因でした。ニューアクションの例題を長期休暇中にすべて解き、解法を覚えるようにしました。センター試験対策にいろいろの問題集を買う必要はないと思います。一つの問題集を徹底的に勉強するのが良いと思います。特にニューアクションは基本問題と応用問題が載っており、その解法も丁寧に書いてあるので、とても使いやすかったです。私は数学が苦手なまま3年生になり、焦って勉強をしましたが、1年生のうちから苦手科目は潰していった方が、後々必ず楽になります。

## 【理科】

理科は普通科と生命科学科で速度がまったく違います。私は理科では生物と化学を選択しました。生物は学校の授業に加えて、予習・復習を行い、問題演習をすれば、ある程度は点が取れると思います。私はそれに加えて記述式の問題もしていました。

化学は、理論の分野の勉強を怠らないようにする必要があります。無期や有機は覚えて慣れればいいのですが、理論は計算の速さが必要となります。きれいな数字にならなくても自信をなくしてはいけません。

## 【社会】

私は世界史を選択していました。学校での進度はあまり早くありません。私は家や学校で「世界史Bの点数が面白いほどとれる本」という参考書を使っていました。この本は世界史を物語形式で進めていくので、情報がとても頭に入りやすかったです。

## 2. 岡崎遼太郎 (米子東) 徳島大学・薬学科合格

(伯耆駿英予備校で「英・数・国・理」を受講)

僕は、高校入学時に友達に薦められて駿英予備校に通い始めました。ほぼすべての科目を教えてもらっていました。

駿英に入学してまずよかったことは、毎週塾に通う事で、その科目ごとの安定した勉強時間が確保できたことです。とくに英語では、駿英でもらえる全訳のプリントをひたすらやることで、安定した点数を取れるようになり、中学校の頃は苦手だったのが、1年生の中盤ごろには得意科目になっていました。国語では、1、2年生のころに授業で基礎をおさえることができ、3年時にほぼ勉強しなくても安定した点数がとれました。

中学校の時と違って高校では、定期前に詰め込み勉強するだけでは、本当にたりないです。痛い目見ました。とくに国数英は1、2年生のころにさぼってしまうと3年生になってからとりかえすのに時間がかかるので、こつこつ塾の授業で勉強するといいと思います。

僕はラグビー部に所属していて1、2年生の頃は部活に打ち込んでいて、大会前などは授業を休むこともあったのですが、その休んだ期間の勉強を個別で教えていただいたこともあり、とても助かりました。

最終的に1番時間がかかったのが数学で、僕はとても苦手だったのでとくにないのですが、1問1問とちゃんとむきあうようにするのが大事です。僕はそれを意識しなかったのが最後の最後まで苦手のまま引っ張って行って二次試験前は本当に大変でした。

でも、二次試験前に駿英でやっている個別の授業で先生にとっても熱心に教えていただいたおかげでなんとか合格できました。

理科は、教科書が大事だと思います。ひたすら問題練習をやる前にしっかり理解することで、知識の定着度が変わっていくと思います。僕はそのことに気付くのが遅かったので、教科書をおさえる前は毎日化学と物理合わせて7時間もやっても、あまり伸びませんでした。みなさんは、こんなことにならないようにしてください^^;

そして、進路相談についても駿英の先生にはお世話になりました。

センターが終わって、学校の先生との面談で志望校を変えるかどうか迷っているとき、最終的に、駿英の先生と相談することで志望校を変える決心がつきました。変えてなかったらたぶん落ちていたので、感謝感謝です。

2学期の最後の最後まで全く結果が出ず、むしろ下がる時もあった、勉強がづらくなったときもありましたが、自分のこれまでの勉強してきたことを信じることで、頑張ることができました。勉強の効率がいいことは1番ですが、努力は絶対裏切りません。

「むだなことはない」という言葉はとても受験生活の励みになりました。むだになる勉強はないです。どんなささいなことでも、いつかどこかで役に立つのでその時を信じて頑張り続けてください!!!!!!

### 3. 升形のぞみ (米子東) 大阪大学・理・合格

(伯耆駿英予備校で、「数学・国語・理科」を受講)

「どん底体験記」

私は大学受験中に2回の「どん底」を体験しました。

まずは高2の夏。私は中3から3年間日本を離れていたため、古典や世界史の知識ゼロ。数学や理科も部分的にしか履修していませんでした。

高2の2学期に東校に編入し、受けた夏休み明けテストの結果、数学30点、世界史23点、その他もひどい点数ばかりでした。

私が「どん底」から抜け出す転機となったのは、駿英に通い出したことです。

私が駿英に通い始めたのは2年の冬でした。授業の中でも多くのことを学びましたが、夜遅い時間でも分からない問題や、自分に合った勉強法を先生に聞くことが出来て、特に部活動をしている時期にサポートをしていただきました。

効率の悪い勉強法を続けていてもなかなか力は伸びないので、予備校の先生方にいただいたアドバイスが「どん底」を抜け出す大きなきっかけとなりました。

そのような「どん底」から抜け出すために私が一番意識したこと、それは基礎事項を根本から理解することです。例えば、化学の気体定数の定義や、数学の順列と組み合わせの公式の意味など、基本的な事項を押えるようにしました。

耳にタコが出来るくらい聞かされていると思いますが、あえて書きます。基礎は大切です。焦って応用問題に進んでしまわずに、基礎を根本から理解して下さい。

私のもう一つの「どん底」は、センター試験でした。自己採点を業者に提出し、返って来た判定結果は、志望校すべてがE判定という文字通りの「どん底」でした。

はじめその結果を見た時は、もうだめだと思いました。しかし、予備校の先生方との面談や過去問を解いた手ごたえから、考え方が変わりました。

センターと2次の配点、自分の2次試験における力と入試問題の傾向をすべて含めて冷静に考えると、希望が見えてきたのです。最終的にE判定だった大阪大学に出願し、2次試験で逆転して合格することができました。

当然のことですが、得意科目・不得手科目、入試問題との相性、マークと記述の実力の差は人それぞれ違います。過去の多くの受験生のデータをもとにした大手予備校の「判定」を参考にするのも良いですが、それはあくまで個人データです。

自分の力は自分が一番よく分かっているはずなので、先生に頼りつつ、冷静に判断すれば、状況の見え方は180度変わってきます。D・E判定で諦めたり、A・B判定で油断したりせず、「自分は全力を出したい」と自信を持って言えるように頑張りぬいて下さい。

今、この体験記を読んで下さっている皆さんも、これから「自分の目標に届かないかもしれない」と不安に思うことがあると思います。私も進路決定や勉強の取り組み方に関してたくさん失敗し、不安を感じていました。特にセンター後は自分の決断が正しかったのか悩みました。もし不安に感じた時は、周りの人に相談してみてください。それから、ここで書いたように「どん底」から立ち直った人も、E判定で合格した人も、ということが、皆さんが不安を感じている時に少しでも助けになれば幸いです。

ここで私が特に効果的だと思った勉強法を紹介します。ぜひ参考にして下さい。

(1) すべての教科に関して自分が苦手な分野を自分の言葉でまとめたノートを作り、模試の前などに繰り返し読みました。

(2) 英単語を覚える時は、自分で例文を作ることで覚えていました。英作文の練習にもなるし、英単語を見るとすぐ意味が思い浮かぶようになるので、読むスピードが上がりました。

最後に、どんな時でも私の背中を押して下さった予備校の先生方に、この場を借りて感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。